

新左京区基本計画 素案

本冊



左京区シンボルマーク

平成 22 年 6 月

左京区役所

目次

- 1 新左京区基本計画の策定について・・・・・・・・・・1
- 2 新左京区基本計画の目指すところ・・・・・・・・・・2
- 3 新左京区木本計画の概要・・・・・・・・・・3
- 4 まちづくりの取組指針と取組内容・・・・・・・・・・4
 - 取組指針その1～美しい自然のまちづくり～・・・・・・・・4～7
 - ・自然環境
 - ・まちの美化
 - ・歩きやすいまち
 - ・自然と調和した都市基盤整備
 - ・防災・消防
 - 取組指針その2～歴史・文化・学問のまちづくり～・・・・8～11
 - ・歴史資源・文化財
 - ・伝統行事・伝統文化
 - ・国際交流・観光
 - ・文化・芸術
 - ・大学のまち
 - 取組指針その3～ひとにやさしい温もりのまちづくり～・12～15
 - ・子ども
 - ・高齢者
 - ・障害のある方
 - ・市民参加
 - ・交流・共生
- 5 新左京区基本計画策定の経緯・・・・・・・・・・16

1 新左京区基本計画の策定について

(1) 計画の目的

左京区では、平成13年1月に区で初めての基本計画である「左京区基本計画」を策定し、「歴史・文化・学問のまち 左京区～緑あふれるやま・さと・まちに広がる出会い!～」をまちづくりの目標に掲げ、様々な取組を展開してまいりました。

この左京区基本計画が平成22年に終了するため、同計画を引き継ぐ新たな基本計画を策定することとなりました。

新しい左京区基本計画は、左京区の魅力や課題を踏まえ、左京区の将来についての区民の皆様のお思いや夢を盛り込んだ「未来の左京区に向けた目標」としてとりまとめました。

多くの区民の皆様のお思いを盛り込むことで、区民の皆様にご身近に感じていただき、共有することができる計画となることを目指しています。

なお、この計画は、京都市基本構想の行政区別の計画として位置付け、新たに策定される京都市基本計画と同列であり、相互に補完するものとします。

(2) 計画の期間

計画期間は、平成23年度から32年度までの10年間とします。

(3) 計画の特徴

左京区役所では、計画素案の作成前の段階から、各地域からの代表等で構成する「左京区住民円卓会議」を開催し、左京区の特徴やまちづくりの取組などについて、それぞれの思いを発表しながら活発な意見交換を行ってきました。また、アンケート方式の意見募集も実施し、多くの区民の皆様から、左京区に関する様々な御感想や御意見をいただけてきました。

これらの取組を踏まえ、新しい計画は、これまでの計画のように、市や区が実施する事業だけを取り上げるのではなく、区民の皆様が心がけていきたいこと、更には、区民の皆様と行政・事業者・大学等が協働で実施していきたい取組を盛り込み、区民の皆様のお思いを伝える計画となっています。

2 新左京区基本計画の目指すところ

自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ
「こころ豊かなくらし」を伝えます

左京区の山々やまちには、四季を彩り、いのちの潤いをもたらす美しく豊かな自然が息づいています。

広大な区域のほとんどは森林に抱かれ、特に山間部である北部地域には、深い森林や澄み切った水源が残されており、その草木や水の流れの中に多くの鳥獣、虫、魚などの息づかいが聞こえてきます。また、市街地である中南部地域には、比叡山や大文字山など東山の峰々が連なるとともに、宝が池公園や糺の森などの緑が広がり、大小の川の流れがまちとまちを結んでいます。

この左京区の大きな魅力である美しく豊かな自然を、左京区にくらししてきた多くの人々は、日々の生活に取り入れ、祭りや営みなどに生かしてきました。それが、左京区の歴史となり、伝統ある文化・産業となって脈々と受け継がれてきました。また、自然との調和を図るくらしのあり方は、美しい景観をもたらし、環境に配慮したくらしの知恵を生み出しました。その美しい左京区を訪ねて、国内外から多くの観光客が訪れます。

このみずみずしい木々の緑と清らかな水の流れに代表される美しい自然、そして豊かな自然に培われた悠久の歴史、自然とともに守り育まれてきた貴重な文化を次の世代に引き継ぐことが、私たち左京区にかかわるすべての者の重要な使命です。

左京区にくらししてきた人々は、これまでから、自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむこころ豊かなくらしを大切にしてきました。

新左京区基本計画では、まず、自然、歴史・文化とともに生きる「こころ豊かなくらし」を次世代に伝えていきたいと考えています。新左京区基本計画のメッセージをもとに、左京区に住む多くの人々が互いに交流を図り、左京区に集まる大学の知恵と力を借りながら、自然、歴史・文化を魅力そのままに未来へ継承することができるまちづくりを進めます。

3 新左京区基本計画の概要

現状

取組指針・取組内容

目標

区民一人
ひとりが
できること

区民と行政・
事業者・大学等
が協働すること

行政
(区役所・市役所)
がすること

左京区
の
魅力
・
課題

取組指針 その1

～美しい自然のまちづくり～

左京区は豊かな自然に恵まれたまちです。
この緑あふれる美しい自然を守り育てるとともに、
自然と調和するまちづくりを進めます。

取組指針 その2

～歴史・文化・学問のまちづくり～

左京区は多彩な歴史・文化が息づくとともに、
多くの大学が集まる学問のまちです。
この魅力を更に高めるまちづくりを進めます。

取組指針 その3

～ひとりにやさしい温もりのまちづくり～

左京区でくらすひと、学ぶひと、働くひと、
そして左京区を訪れるすべてのひとにやさしい
温もりが伝わるまちづくりを進めます。

自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ「こころ豊かな暮らし」を伝えます

4 まちづくりの取組指針と取組内容

取組指針 その1

～美しい自然のまちづくり～

左京区は豊かな自然に恵まれたまちです。
この緑あふれる美しい自然を守り育てるとともに、
自然と調和するまちづくりを進めます。

(1) 左京区の魅力・課題

【自然環境】

左京区は、美しく豊かな自然に恵まれた山紫水明の地です。美しい山々と清らかな水の流れをはじめとする自然が左京区の大きな魅力であり、誇りです。また、家の中に花を飾ったり、周辺の山々を借景にするなど、自然を愛で、楽しむ文化やこころも区民に脈々と受け継がれてきました。

その一方で、北部地域における農林業は、担い手の不足や高齢化により存亡の危機にあります。また、左京区には京野菜をはじめとする農業の伝統があり、今後も農地を維持しながら、地元の食材を生かした食文化を広めるなど、豊かな自然を生かした農業を守り伝えていくことが重要です。

左京区では、自然環境をキーワードに市街地と山間地域の交流を進め、水や木などの資源を円滑に地域間で潤滑させ、様々な生物が共存する「生物多様性」を保全する仕組みが求められています。

【まちの美化】

左京区には市街地の中にも街路樹や寺社、公園の木々などの緑が豊かにあり、四季の移り変わりを感じさせてくれます。しかし、秋になれば落ち葉が多くなり、春には桜などの花が落下します。その清掃が地域の大きな課題となっています。

また、観光客が多く訪れる地域では、しばしばゴミが散乱し、地域で清掃しなければならない状況です。

また、左京区は清らかな水に恵まれ、アユ釣り等の区民で川が賑わうこともあります。これからも、美しい河川を守る事が大切です。



【歩きやすいまち】

左京区は、交通利便性に関しては、まだ遅れている点があります。高齢化や安心・安全といった観点からも新たに交通体系を考えることが必要です。また、大学のまちであることから、学生が自転車に乗ることも多く、違法駐輪や走行マナーの悪化が指摘されており、自転車利用環境の整備や自転車の利用マナー・ルールの普及が課題となっています。

区域の広い左京区では、地域の特徴も多彩です。地域の特徴は、歩いて回ることにより身近に感じることができます。安心して歩き回ることでできるまちづくりが求められています。

【自然と調和した都市基盤整備】

左京区の北部地域では、人口の減少が大きな課題となっています。北部地域では、魅力的な催しも多く開催されていますが、訪ねる人が少ないのが現状です。北部地域に来てもらい、くらしてもらうためには、左京区ならではの自然の文化や食の文化などの魅力を伝えるとともに、自然と調和をはかりつつ、道路整備などのインフラ整備を進めることが重要です。

大原や鞍馬等の市街化調整区域や花脊峠以北の都市計画区域外の地域では、豊かな自然や良好な農林業環境の保全と地区計画制度の活用等による地域の活性化の調和が課題です。

一方、市街地の子どもの中には、田んぼを見たことがない子どももいます。北部地域との交流を進めるとともに、街路樹や公園の木などを大切に四季の移り変わりを感じることも必要です。

【防災・消防】

安心・安全なくらしを守ることは、まちづくりの中でも重要な課題の一つです。とくに左京区は、花折断層が縦断し、山間部も多いために土砂崩れなどの自然災害の危険性も高くなっています。

防災や安全といった課題は、その時々に対応していけばいいということではなく、まず、地域の安全を将来にわたってどのように確保していくのかを考える必要があります。そのうえで、次代の子どもたちに対してどのような取組をするのかを長期的な視点で考えることが求められています。

(2) 取組内容

自然環境

まちの美化

歩きやすいまち

自然と調和した 都市基盤整備

防災・消防

区民一人ひとりが できること

「自然を愛でるころ」を大切にしましょう。

- 自然を大切にするとともに、「自然を愛でるころ」を次の世代へ受け継ぎましょう。
- 美しい自然を守るため、地球環境に配慮した生活（エコライフ）を実践しましょう。

美しいまちを目指しましょう。

- 昔からの習慣である「門掃きや打ち水」を継続し、まちを美しくすることを心がけましょう。
- ゴミを出すルールを守るとともに、環境意識を高めてゴミを減らす努力をしましょう。

自転車等のマナーの向上に努めましょう。

- 自転車等を利用する時は、誰もが走行や駐輪のマナーの向上に努め、子どもや高齢者等の歩行者が安心して快適に歩くことができるようにしましょう。

自然資源をくらしや生業の中で使いましょう。

- 左京区の自然や資源を、くらしや生業の中に使っていくために取り組みましょう。
- 自然資源を生かして地域間の交流や連携を深めましょう。

自然災害等に対する防災意識を高めましょう。

- 自然災害や火災に備え、被害を最小限にするため、日常的に地域全体の安全を一人ひとりが考え、防災意識を高めましょう。

区民と行政・事業者・大学等 が協働ですること

行政（区役所・市役所） がすること

山を育てて、自然の資源を生かしましょう。

- 山全体を育て、休耕田等の活用を進めましょう。
- 情報交換を進め、自然の資源を生かしましょう。
- 大学や事業者等との協働により、自然と食の文化を次世代に伝える取組を進めましょう。

自然を生かした区内の交流を進めます。

- 豊かな自然を生かし、山村都市交流の森などを拠点として都市住民との交流を進めます。
- 山林の整備を行い、鳥獣被害の対策を進めます。
- 自然の情報を発信し、左京区の魅力を伝えます。

地域での一斉清掃などの取組を行いましょう。

- 大学とも協働し、地域で一斉清掃を行うなど、まちや山・川を美しくする取組を進めましょう。
- 学校と連携することにより、ゴミの出し方のルールを徹底し、不法投棄をなくしましょう。

ゴミの減量や環境の広報啓発を充実します。

- まちの美化やゴミの減量に関する啓発や環境の取組に関する広報を充実し、地域とともに清掃活動を推進します。
- 河川等への不法投棄を防ぐ取組を進めます。

誰もが歩きやすい道を確保しましょう。

- 大学をはじめとする学校や地域、行政機関等と連携し、自転車の利用マナー・ルールの普及に向けた啓発を進めましょう。
- 歩道に看板や物を置かないようにしましょう。

歩きやすいまちづくりを進めます。

- 電線類地中化、交通バリアフリーの推進、放置自転車の撤去、駐輪場整備、標識の整備などを通して、歩きやすいまちづくりを進めます。
- 安心・安全を守るための交通体系を検討します。

まちの緑や景観を守りましょう。

- 街路樹等の緑を豊かにし、自然と調和した美しい景観を地域と行政が協働して守りましょう。
- 若い世代が移り住めるよう、自然を守りながら山間地域の活性化を進めましょう。

自然に配慮した都市基盤整備を進めます。

- 北部地域の活性化や山間地域と市街地の交流を促進するため、北部地域と市街地とを結ぶ道路網の整備推進など、美しい自然に配慮しながら、都市基盤整備を進めます。

長期的な視点で防災に取り組みましょう。

- 地域と行政が力を合わせ、防災や地域の安心・安全について、長期的な視点に立って取組を進めましょう。

災害に強いまちづくりを進めます。

- 災害に強いまちづくりを進めるため、区民と行政のネットワークを充実し、地域の防災力を高めます。
- 災害に強い道路や橋等の整備を進めます。

～歴史・文化・学問のまちづくり～

左京区は多彩な歴史・文化が息づくとともに、
多くの大学が集まる学問のまちです。
この魅力を更に高めるまちづくりを進めます。

(1) 左京区の魅力・課題

【歴史資源・文化財】

左京区は、区内の至るところに、悠久の歴史や文化が息づいています。国内でも有数の文化財が点在し、長く住んでいても知らない文化財もたくさんあります。左京区に住む子どもたちが、これらの誇るべき歴史・文化を日々のくらしや、学校と地域の連携の中で学んでいく必要があります。

また、市街地の様子が大きく変わっていく中で、貴重な歴史・文化は守り育てていかなければなりません。変わらないものと変わっていくものが共存できるまちを目指すことが重要です。

【伝統行事・伝統文化】

左京区には、昔ながらの形で保存・継承されてきた伝統行事が数多くあり、京都市の登録無形民俗文化財の約半数は左京区に集中しています。これらの伝統行事を支えている保存会では、行事を受け継ぐ次世代の育成が課題となっています。

地域の身近な祭礼でも、子どもたちが参加せずに廃れていく例があります。逆に、新しく左京区に来た方は、地域の行事とのかかわり方がわからないでいる場合もあります。

大学や小学校との連携も視野に入れ、子どもが地域の行事に参加できるような仕組みづくりが必要となっています。併せて、新しい住民の方に伝統行事への参加を呼びかけていくことが重要です。



【国際交流・観光】

左京区は、豊かな自然、美しい景観、歴史ある神社仏閣など、誇るべき観光資源が数多くあります。これらの自然や文化などに触れるために、多くの人国内外から左京区に来て、その自然や文化などを学んで帰ります。そのような観光客に対して、迎え入れる区民は歴史や文化をよく知ったうえでもてなせば、観光客の満足度はさらに上がるものと思われまます。その点で左京区では、観光を単なる産業としてとらえるのではなく、地域の文化として区民で支えていくことが重要です。

また、左京区は外国人登録者の国籍が100か国を超えており、京都市の中では最も多国籍な区であることから、外国人とともにくらすまちづくりを進めていく必要があります。

【文化・芸術】

左京区には、北山や岡崎をはじめとする文化的地区があり、併せて、各地域で文化・芸術の伝統や蓄積が受け継がれてきました。それらの文化・芸術は、季節感を重んじることでくらしの中に溶け込み、区民はそれらの文化・芸術を楽しんできました。とくに、自然の文化や食の文化は、左京区独自のくらしの中で育まれた文化です。このように、左京区は文化的環境に恵まれた地域です。

このような文化・芸術を楽しむところを多くの区民が受け継いでいくためにも、まずは区民が魅力を感じて文化・芸術にふれるような仕組みを考えていく必要があります。

また、自然と歴史を生かした、左京区ならではの新しい文化・芸術の取組が期待されています。

【大学のまち】

左京区では、区内に6つの大学（京都大学、京都工芸繊維大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学）が集積していることから、「大学のまち・左京」として、大学と地域の連携を積極的に行ってきました。地域に入って熱心な活動を展開する大学の教員も多く、大学と地域の結びつきはますます強くなっています。

とくに学生には、共に地域で生きる者として、研究を通じて地域の伝統行事に携わるなど、積極的に地域にかかわりを広げていくことが期待されています。一方で、生活者として自転車などの交通のマナーやゴミ出しなどの生活のマナーの向上も求められています。学生の持つ柔軟な発想と若々しい力には左京のまちを大きく変えていく可能性があり、大学と地域がうまく交流していくことが重要です。

(2) 取組内容

歴史資源・文化財

伝統行事・伝統文化

国際交流・観光

文化・芸術

大学のまち

区民一人ひとりが できること

左京区の歴史や文化を学びましょう。

- 豊かな伝統と歴史を誇る左京区の魅力を学び、次世代へと受け継いでいきましょう。
- 左京区の自然と歴史が融合した文化のよさを再認識し、守っていきましょう。

伝統行事を守り伝えましょう。

- 左京区の多くの伝統行事の魅力や大切さを再発見、再認識し、伝統行事を守り伝えましょう。
- 若い世代や子どもに伝統行事を伝えるとともに、行事への参加を呼びかけましょう。

観光客に左京区の文化を伝えましょう。

- 左京区の文化を理解したうえで観光を推進し、地域の文化を発信しましょう。
- 国内外からの観光客に左京区の文化を伝えるおもてなしの心であたたかく迎えましょう。

文化・芸術を楽しみましょう。

- 区内にある文化・芸術の施設を訪ね、文化・芸術を楽しみましょう。
- 暮らしの中に息づいている文化を新しい視点で受け継いでいきましょう。

地域と大学との交流を図りましょう。

- 近くの大学に通っている学生や地域でくらししている学生と交流を図り、若い力でまちづくりを進めましょう。
- 学生は、生活や交通のマナーを守りましょう。

区民と行政・事業者・大学等 が協働ですること

行政（区役所・市役所） がすること

歴史や文化を学ぶ仕組みをつくりましょう。

- 地域の歴史や文化について、地域と大学等の連携により、区民が気軽に学ぶことのできる仕組みづくりを進めましょう。

小学校等との連携により、伝統行事を継承しましょう。

- 小学校の協力を得ながら、子どもたちが地域の文化や伝統行事を学ぶ機会をつくりましょう。
- 大学との連携により、伝統行事の保存・継承の課題解決に向けた取組を進めましょう。

自然を生かした観光の仕組みづくりを進めましょう。

- 農林業や食文化の体験、風景観賞など、自然を生かした観光の仕組みづくりを進めましょう。
- 朝市の開催など、自然を生かした観光を進め、山間地域と市街地の交流を図りましょう。

自然を文化・芸術に生かしましょう。

- 左京区の自然を文化・芸術に取り入れることのできる仕組みづくりを進めましょう。
- 大学との連携により、区民が左京区の文化を学ぶことのできる機会をつくりましょう。

大学の発想を生かしたまちづくりを進めましょう。

- 学生や研究者ならではの視点を生かし、地域の課題解決とまちづくりを進めましょう。
- 大学と地域が連携し、学生の地域の行事への参加を促進しましょう。

文化財の保全・活用を進めます。

- 左京区の貴重な文化財の調査を行うとともに、保全・活用を進めます。
- 左京区の歴史や文化についての情報発信を充実し、左京区の魅力を伝えます。

伝統行事のネットワークを充実します。

- 伝統行事を担う人のネットワークを充実し、地域間の交流や材料等に関する情報交換を支援します。
- 伝統行事の魅力や課題等の広報を展開します。

地域の魅力を生かした観光を支援します。

- 観光客によるゴミの散乱や騒音等を防ぎ、自然や文化をゆっくり味わうことのできる観光を目指し、地域の魅力づくりを支援します。
- 区内にくらす外国人との文化交流を図ります。

文化・芸術を身近にふれる機会を提供します。

- 文化・芸術関連の施設で、文化・芸術に気軽にふれることのできる仕組みづくりを進めます。
- 食文化やいけ花などの自然と結びついた文化を体感することのできる機会を提供します。

大学が連携できる仕組みづくりを進めます。

- 区内の6大学が連携し、左京区ならではの共同事業ができるような仕組みづくりを進めます。
- 地域と大学の協働によるまちづくり事業を支援するとともに、更なる情報発信を行います。

取組指針 その3

～ひとにやさしい温もりのまちづくり～

左京区でくらすひと，学ぶひと，働くひと，
そして左京区を訪れるすべてのひとにやさしい
温もりが伝わるまちづくりを進めます。

(1) 左京区の魅力・課題

【子ども】

左京区においても高齢化に加えて少子化が進んでいます。子どもは、自然や歴史・文化に恵まれた左京区の将来を担っていくかけがえのない宝です。

核家族化が進む中であっては、子どもを地域全体で見守り、育むように努めることが重要です。次代を担う子どもに対して、安心・安全のまちづくりをどのように進めるのかを長期的な視点から考える必要があります。

とくに、北部山間地域では子どもが非常に少ない状況ですが、子育てに適した豊かな自然環境と整った教育施設があります。市街地との交流もはかりつつ、多くの子どもが自然の中でのびのびと育つような、左京区ならではの子育て支援を進めることが重要です。



【高齢者】

高齢化の進展は、左京区も例外ではありません。北部の山間地域でも市街地でも高齢化は著しく進んでいます。高齢者を支援するとともに、安心してくらす環境づくりが急務となっています。

左京区にくらしてきた高齢者の方は、左京区の豊かな自然を守り育て、歴史や文化を継承・発展させてきました。将来を担う次の世代に伝え、導いていかなければならないことは数多くあります。

そのためにも、まずは、高齢者の方が健やかにくらし、いきいきと地域で活躍してもらう必要があります。とくに、一人くらしの高齢者の方に対しては、地域の一人一人と各種団体が協力して声かけや見回りをするなど、地域全体で顔の見える人間関係を作り上げることが重要です。

【障害のある方】

障害のある方もない方もいきいきとくらすことのできるまちづくりが重要です。左京区では、これまでから地域で福祉に取り組む意識が受け継がれ、高齢者への支援と並んで、障害のある方への支援についても積極的に行われています。

障害のある方が地域ですこやかにくらすしていくには、社会福祉協議会や区内の福祉施設等と左京区役所が更に連携を深め、地域の支え合いを進めていくことが重要です。

【市民参加】

左京区は、区域が広大であり、地域が育んできた歴史や文化は多彩です。地域での活動に対する区民のかかわり方や考え方も地域によって大きく異なり、新しい住民が多い地域では、まずはコミュニティづくりが課題となっているところもあります。

いずれの地域に住んでいても、地域の活動にかかわりたいと考えている区民は大勢います。しかし、活動へのかかわり方がわからずに参加できない場合もあるようです。その意味でも、区民の力を地域の活動に生かすきれていないのが現状です。左京区の特性を踏まえた、誰でも取り組めるような身近な活動を展開し、その情報を積極的に提供していくことが重要です。

【交流・共生】

左京区は、区域が南北に長く、各地域の独自の生活文化等が確立しているため、地域間での交流の機会が少ないのが現状です。昔は、北部地域で産出した農産物や木材等を中南部地域に届けるというかかわりがありました。今後は、地域間の連携を深め、人や資源をつないでいくことが重要であり、そうすることで子どもや高齢者等を支える仕組みづくりを進めていく必要があります。

また、左京区に何代にもわたり住んできた区民と、新しく転居してきた区民がくらししています。また、「大学のまち」であることから、外国からの研究者や留学生も多くくらししています。多くの人々が互いを尊重しながら、助け合い、交流を深めていくことが重要です。

(2) 取組内容

子ども

高齢者

障害のある方

市民参加

交流・共生

区民一人ひとりが できること

子どもを地域全体で見守り、育てましょう。

- 子どもを地域全体で見守るため、登下校時に大人から進んであいさつや声かけをしましょう。
- 子どもや子育て家族について地域全体で考え、支え合うようにしましょう。

高齢者が安心してくらすよう、支え合いを進めましょう。

- 高齢者が安心してくらし、安全に外出できるよう、地域の支え合いを進めましょう。
- 高齢者と子どもとの交流を図るなど、高齢者の身近な地域活動への参画を進めましょう。

地域で福祉に取り組む意識を受け継ぎましょう。

- 地域で福祉に取り組む意識を受け継ぎ、障害の有無にかかわらず、すこやかにくらすよう、地域の支え合いを進めましょう。

地域活動へ参加を呼びかけましょう。

- 左京区の特性を踏まえ、誰でも取り組めるような身近な活動をさらに展開するとともに、地域の活動への参加を広く呼びかけましょう。
- 地域コミュニティを深めるよう努めましょう。

互いを認め合い、交流を深めましょう。

- 左京区に古くから住んでいる人、新しく転居してきた人、外国から来た人など、左京区に住むすべての人がお互いを認め合いながら、助け合い、交流を深めましょう。

区民と行政・事業者・大学等 が協働ですること

行政（区役所・市役所） がすること

子どもの安心・安全を確保しましょう。

- 学校と地域の連携により、子どもの安心・安全を確保し、すこやかな成長を支援しましょう。
- 地域行事に子どもが参加する機会を増やし、子どもが地域のことを学べるようにしましょう。

子どもが施設で学べる仕組みづくりを進めます。

- 子どもが興味を持って学べるよう、区内の施設に気軽に訪問できる仕組みづくりを進めます。
- 子どもが自然にふれることのできる機会を提供します。

地域で顔の見える関係づくりを進めましょう。

- 地域と行政が協働し、高齢者が孤立しないよう、地域で顔の見える関係づくりを進めましょう。
- 地域の伝統行事などをきっかけに、高齢世代と子どもの世代をつないで交流を進めましょう。

高齢者が地域で活動できるよう支援します。

- 交通バリアフリーなどを推進することにより、高齢者が安全に外出でき、いきいきと地域で活動できるよう支援します。

地域ですこやかにくらすよう交流しましょう。

- 社会福祉協議会を核としながら、左京区内にある福祉施設等が連携し、障害のある方がすこやかに地域でくらすよう、お互いの交流を深めましょう。

地域のネットワークづくりを推進します。

- 地域のネットワークづくりを推進し、障害の有無にかかわらず、地域での活動に参画できるよう支援します。

地域の団体との連携により、地域活動の輪を広げましょう。

- 地域の各種団体、自治会、学校運営協議会等と行政が連携を図り、スポーツ、福祉、教育などの地域の活動の輪をさらに広げましょう。
- 地域の連携を深め、防犯・防災を進めましょう。

地域活動に関する情報を発信します。

- 市民しんぶんやホームページで地域の活動等についての情報を充実させることにより、地域活動をしたいと思っている人が活動に加わり、活動の輪が広がるよう支援します。

自由に交流できる平和なまちづくりを進めましょう。

- お互いの文化や考え方等の違いを認め、自由に交流できる平和なまちづくりを進めましょう。
- 地域間の連携を深め、子どもや高齢者を含めてお互いを支える仕組みづくりを進めましょう。

地域間の交流と情報の共有を支援します。

- 北部地域の施設との連携により、自然の魅力や課題等を共有し、交流できる機会を提供します。
- 地域間の連携を深め、情報の共有ができるよう、広報の充実を図ります。

5 新左京区基本計画策定の経緯

左京区では、新しい左京区基本計画を策定するに当たって、左京区の将来について区民の皆様と共に考え、いっしょに計画を作り上げていくため、区民の皆様で構成する「左京区の未来をつくる区民会議」を設置しました。

同会議は、市政協力委員連絡協議会会長及び自治連合会会長等で構成する「左京区住民円卓会議」と、学識経験者や地域で活動されている方等で構成する「次代の左京まちづくり会議」からなっています。

(1) 左京区の未来をつくる区民会議「左京区住民円卓会議」

「左京区住民円卓会議」は、平成20年12月3日に第1回の会議を開催し、南部、中部南、中部北、北部（花脊峠以南）、北部（花脊峠以北）の5グループに分かれて、それぞれの地域の視点から意見交換を行いました。

左京区の現状や特色、10年後に残したいこと、まちづくりの自主的な取組などをテーマに、日頃の思いや目標を話し合い、会議の最後には互いに発表することで各地域の課題などを共有しました。

◇第1回（平成20年12月3日）

- ・まちの現状を把握しよう
- ・まちの特色や個性を考えよう

◇第2回（平成21年2月10日）

- ・10年後に残したい、このまちの宝
- ・10年後に向けて、わたしたちができること

◇第3回（平成21年11月26日）

- ・まちづくりの自主的な取組を考えよう

(2) 左京区の未来をつくる区民会議「次代の左京まちづくり会議」

「次代の左京まちづくり会議」は、学識経験者や地域で活動されている方等の16名で構成する左京区基本計画の策定委員会です。平成21年6月30日に第1回を開催し、以来、主に、左京区の魅力と課題やまちづくりの取組指針について協議してきました。

「次代の左京まちづくり会議」では、「左京区住民円卓会議」とも連携を図り、第3回の「左京区住民円卓会議」には、座長、副座長、委員1名が参加し、課題提起を行うとともに、グループに入って意見交換を行いました。

◇第1回（平成21年6月30日）

- ・次代の左京まちづくり会議の設置について
- ・次期左京区基本計画の策定について

◇第2回（平成21年11月10日）

- ・左京区の魅力、課題
- ・左京区のまちづくりの取組指針

◇第3回（平成22年1月19日）

- ・次期左京区基本計画（素案）について

◇第4回（平成22年3月15日）

- ・新左京区基本計画素案（修正案）について